

命の印

松山市消防局

消防士 宮浦 織

出産。それは母と子の命を賭けた試練。その試練を乗り越え、大きな産声をあげた我が子をこの胸に抱いたとき、授かった命に感謝し、何があってもこの子を守り、育てていくという強い決意に涙が溢れました。それと同時に、新たな命の重みと大きな責任に例えようのない不安を感じ、圧倒されそうになったのを今でも鮮明に覚えています。この感動と不安は、親になった方なら誰も感じたのではないのでしょうか？

「生後3ヶ月 男児 心肺停止状態」

救急要請を受け、現場に到着すると、生まれて間もない男の子の小さな胸を、唇をかみしめ、ただただ必死に押ししているお母さんがいました。すぐに救急車に乗せて、託された命のバトンを引き継ぎ、病院へと走り出しました。しかし、その子が目を覚ますことはありませんでした。病院で私にすがって、乳児に対する心肺蘇生法があることを知らなかった、あの子に何もしてやることができなかつたと泣き崩れるお母さんの姿に、同じ母親として胸が詰まり、私は言葉を返すことができませんでした。

現在、松山市では一般の市民の方を対象とした救命講習のほかに、乳幼児を持つ親のための救命講習や親になる人のためのパパママ救命講習を開催しています。また、松山市のホームページにはweb講習があり、講習機会の充実に努めています。しかし、より多くの命を救うためには、機会の充実だけでなく機会そのものを知っていただくことが、より多くの方の正しい知識と技術の向上に繋がると思います。

そこで私は、さらなる向上のために今と未来の命を守る証“命のスタンプラリー”を提案します。まず、母子手帳と共にスタンプカードを渡します。さら

に講習を知る機会を増やすため、公的機関での定期健診の際にも子どもの成長に合わせたスタンプカードを渡します。スタンプカードには、予め子どもの年齢に応じた講習やイベントを記載しておき、これらの講習やイベントに参加するごとにスタンプを押します。定期健診の際、それまでに押されたスタンプの数に応じたプレゼントを用意することで、意欲を湧かせ持続させます。プレゼントは、救急・防災に関係するグッズや年齢に応じ消防自動車のシールなど、親子揃って喜べるものにする事で、救急だけでなく防災意識の更なる向上を期待できると考えます。

講習の機会を知り、技術を身に付け、命を明日に繋げる。あの現場で見た涙を繰り返さないためにも、知ることは命に繋がるのです。子どものアルバムや日記のように、後に残すことのできるものが増えることは、親にとって誇らしく嬉しいものです。親が取り組む姿、その姿を見た子どもは命の尊さを学びます。子どもに命の尊さを教えることは親に与えられた使命です。その使命の一翼を担う。それが、生死を分ける現場で命に携わる私たち消防吏員の使命ではないでしょうか。この命のスタンプラリーは親を講習の場へと案内する道標になるのです。

親になったあの日の強い決意を胸に、自信を持って授かった命にしっかり向き合う。命の印を刻むために。